

2月4日は立春。風はまだまだ冷たいけれど、陽の光の力強さに、少しだけ「暦の春」を感じられるようになりました。

この冬は、例年になく寒さが厳しいようで北海道の北部で-30度を記録したとか！

「雪が解けたら何になる？」という理科のテストで「春になる！」と答えた小学生のエピソードが、ふと思い出されました。



暖かな春を待つ楽しみ、それは四季の国に生きる私たちだからこそ実感できること。雪国の方々にはなおさらなのでしょうね。

犬とネコの肉球に違いはある?? ★(ちょっとコーヒーブレイク)

♪雪やこんこ～♪ 犬は喜び庭かけまわり、猫はコタツで丸くなる♪
おなじみの童謡ですが、これって本当なの？



確かに犬は、極寒地でも素足で雪や氷の上を長時間歩いたり走ったりすることができます。人間では、その冷たさから体温低下、凍傷などをおこし、とても不可能なことです。

犬の肢先(肉球)を研究したところ、そこには特殊な血管配列である「動脈周囲静脈叢(そう)」が存在することが確認されました。

これは、動脈にまわりつくように、静脈が平行に走行しているものです。

体の中心部からの温かい動脈と、指先から送られてくる冷たい静脈が、対向し、血管が密に接することで、動脈と静脈の間で熱交換が行われます(対交流交換システム)。これにより、指先の冷えた血液と、体の中心部に戻る血液とが温められ、体も冷えにくくなるのです。

これらは、南極に生息するペンギンの肢や、鯨の尾びれなどにも存在が確認されています。

一方、猫にはこのような特殊な血管配列は見られません。

この違いは、起源を寒冷地に持つ犬と、半砂漠地帯に持つ猫の、環境的影響により、生まれたものと考えられています。

—ペットグルーミング・スペシャリスト・福山貴昭氏の解説より—